

2024年11月24日 第二礼拝

説教題「矢印は『外向き』～出かけていきなさい～」ルカ福音書6章20～26節

主任牧師 加藤 誠

「イエスは重ねて言われた。『あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。』」(ヨハネによる福音書20章21節)

「これ」を失ったら、教会でなくなってしまうもの。それは何だろうかという問いを持ちながら、10月から聖書に聴いています。今朝はその一つである「教会の矢印の向き」について聖書に聴いていきましょう。

復活の主は暗い部屋の中に閉じこもっていた弟子たちにこう語りかけました。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」(ヨハネ 20:21)。また使徒言行録では「(あなたがたは)地の果てに至るまで、わたしの証人となる」(使徒 1:8)と語りかけられました。弟子たちは、世界に向けて、また隣り人に向けて派遣されたのです。何のためにでしょうか。彼らが主イエスを通して体験した「赦しと愛の神の御言葉」を人々に証していくためです。主イエスが自分たちを愛してくださったように、主イエスの愛をもって隣り人を愛していくためです。ここに教会の矢印が明確に示されています。教会の矢印は「外向き」。世界と隣り人に向かう「矢印」。もしこの「矢印の向き」を見失うなら、教会は「イエス・キリストの教会」ではなくなるのです。

十字架の縦と横は、神との関係と隣り人との関係をあらわすと同時に、神から私たちに注がれている愛と、隣り人に向かう愛をあらわしています。神の愛を結びつけられた者は、神の愛によって隣り人とつながられていく。その点で私たちは、十字架の縦と横の関係を深め、広げる歩みをすることができているでしょうか。神の愛を受け取るだけで、自分向きの矢印で止まってしまっていないでしょうか。

今年もいよいよ来週からアドベントを迎えます。クリスマス委員会が毎週打ち合わせを重ねて素敵なチラシを整えてくれました。一枚一枚祈りを込めて届けていきたいのです。届けるのは「わたし」です。誰に手渡していくのか。祈っていきたいのです。

教会がいただいている「矢印の向き」を思い巡らす中でルカ福音書の6章を示されました。主イエスが「幸いと不幸」について語られた有名な箇所です。これらの言葉はいわゆる格言ではありません。主イエスの「幸い宣言」であり、自分は誰と共に生きようとされているのかを明言した宣言です。「幸い」は英語で「blessed」。「神の恵が共にある！」の意味。「貧しい人、今飢えている人、今泣いている人、神の愛はあなたがたと共にあり、わたしはあなたがたと共に歩む。あなたがたは満たされ、笑うようになる！だから大丈夫！」と、主イエスは語られたのでした。

一方で後半の「不幸だ」と語られている部分はどういう意味なのでしょう。主イエ

スゴ自身は貧しい人／飢えている人／泣いている人に向かって「あなたたちは満たされ、笑うようになる」と言われているのですから、お腹いっぱいになり笑顔になること自体を「不幸」と語っているのではないはずです。五千人以上の人々と五つのパンと二匹の魚を分かち合ったときに「人々は満腹した」とあります。人々が満腹して笑顔になること。それは主イエスの祈りであるはずですが、なのに、なぜここで「不幸だ」と言われているのか。このことを思い巡らす中で示されたのがルカ 12 章の「愚かな金持ち」のたとえです。広い畑を持つ金持ちがある時、思いがけない豊作により大きな富を手に入れます。彼は「これで自分の人生は安泰だ」と飲めや歌えの大騒ぎをした夜に、神の「愚か者よ」という言葉と共に、その命を取られてしまいます。金持ちが「これさえあれば俺の人生は安泰だ」と思って握りしめた富は、彼の命を支えるものとはなりえず、あっという間に彼の手から失われてしまいました。私たちは「自分のものを自分の好きなように使って何が悪い！」と開き直りますが、聖書ははっきりと告げます。それはすべて神さまからのプレゼントであって、あなた自身のものではないと。そのプレゼントをあなたはどのように用いていくのかと。自分だけの矢印で終わるのか。それとも隣り人とつながる矢印にしていくのか。そのことを神は問われるのです。

「ぶどうの木」の言葉（ヨハネ 15 章）では、イエス・キリストというぶどうの木につながる時、豊かな実り、大きな喜びがもたらされると言われていますが、その喜びや実りは「あなたの実り／喜び」ではなく、「あなたがたの実り／喜び」と主イエスは言われている。単数形ではなく複数形です。主イエスの愛を、わたしだけのものとするのではなく、誰かと分かち合っていくとき、あなたの人生が神の実りで豊かに祝福されていくことを教えてくださったのです。

ルカ 6 章の「幸いと不幸」に戻りますが、ここで「不幸だ」という言葉は英語では「woe」、「なんて悲しく、寂しいのか！」という言葉です。それを先ほどの愚かな金持ちに重ねるなら、主イエスが「なんと悲しく寂しい生き方か！」と嘆かれたのは、自分だけが富み、自分だけが満腹し、自分だけが笑っている状態のことではないでしょうか。今あなたが自分だけのものと握りしめているものはあっという間に取り去られてしまうもの。人間にとって一番大切なもの、あなたの人生を本当に豊かにするものを知らないあなたは「なんと悲しく寂しい存在か！」と主イエスは言われたのです。

二年前に主のもとに召された Y さんを思い起こします。わたしは Y さんから「人生は神さまからのプレゼント。生き方は神さまへのささげもの」という言葉が書かれたノートを受け取りました。人間にとって一番大切な「愛」というプレゼントを神さまからいただいた私たちは、自分の生き方をどのように神さまにささげていくのでしょうか。主イエスの教会の矢印は外向き。十字架において示された神の愛を、自分だけの矢印で止めることなく、世界と隣り人に向けていきたいのです。